



北中生へ サッカーワールドカップ 日本vsオランダ戦

今週の月曜日。サッカーワールドカップで、日本はオランダと戦った。サッカーに興味のない人は分からないかもしれないが、オランダは世界ランキング8位(日本は18位)で、これまで準優勝3回している強いチームだ。結果は2-2の引き分けだった。しかし、強敵を相手に、リードされながら引き分けに持ち込んだ試合は、「日本は強い」と世界で話題になった。

今回は、この試合について書いてみる。



1 仲間と共に

試合の3日目前。キャプテン遠藤選手のケガによる離脱が発表され、遠藤選手は一人チームを去った。試合前のミーティングで遠藤選手のメッセージビデオが流れた。遠藤選手は「来られない選手のために頑張ると言わなくていい。自分のために、頑張ってもらいたい」とメッセージを送った。遠藤選手のメッセージでチームの士気は上がったという。

そして、試合中、日本チームのベンチには遠藤選手のユニフォームが掲げられていた。試合終了後、新キャプテンの板倉選手は遠藤選手のユニフォームを高く掲げた。

※士気…試合に対する意気込み

2 役割

日本は後半になって、5人の選手が途中から入れ代わった。日本の2点目に絡んだのは、途中から入った小川選手と伊東選手だ。小川選手は「(ベンチから見ていて)前半から勇気をもらっている。自分もやらなきゃと強い思いを持って臨んだ」と試合終了後に話している。

伊東選手は「途中交代の選手が試合を決める」と役割を自覚していた。

先発した選手とベンチスタートの選手。全員が自分の役割を理解し、チームが一つにまとまったからこそ、同点に迫りついた。

3 フェアプレー

今回の試合で、オランダのイエローカードは3枚。日本は0枚。イエローカードとは悪質なファウルをした時などに審判が出す「警告」のカード。

この試合ではオランダの激しいプレーに対して、日本のフェアプレーが話題になった。「正々堂々と戦う日本選手の姿はこの試合だけでなくいろんな場面で目にする。

ちなみに、イエローカードよりも悪質なファウルなどをした時は、レッドカード(一発退場)を受ける。ワールドカップで日本がレッドカードを受けたことは、初出場から今回のオランダ戦まで26試合、一度もない。

4 来た時よりも美しく

試合が終わった後、日本の選手やスタッフは、ロッカールームを清掃し、タオルなどをきれいにたたんで帰った。今回に限らず、これまでも日本チームは同じようにしていた。

また、応援していたサポーターも試合終了後、ゴミ袋を手に、ゴミ拾いをしたそうだ。この日本チームやサポーターの行動は世界で称賛された。 ※称賛…ほめること

北中の歓迎遠足でもやっていた「来た時よりも美しく」。日本人の当たり前前の行為は、世界の人にとって、「すごいこと」に映るようだ。